

第4章

取り組みの柱と基本施策

観光振興を進めていくための取り組みについては、これまでの観光に関する分析結果及び理念・目標・基本方針を踏まえ、6つの柱に整理しました。

取り組みの柱

取り組みの柱
1

まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

→ 36-37p

取り組みの柱
2

まちあるきのための環境整備

→ 38-39p

取り組みの柱
3

まちあるきを通じた交流の場・機会の創出

→ 40-41p

取り組みの柱
4

観光まちづくりのための情報発信

→ 42-43p

取り組みの柱
5

観光まちづくりのための人材育成

→ 44-45p

取り組みの柱
6

観光推進体制の構築

→ 46-47p

取り組みの柱

1

まちあるきを中心とした
資源の発掘・活用・創出

基本施策

- 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ
- 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり
- 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり
- まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築

● 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ

本区は多彩な魅力を持っていますが、そこで生活する区民はこれらの魅力に気づきにくいものです。区内での居住歴や世代、活動エリア等によってもその「気づき」の程度に違いがあります。来訪者を迎え入れるにあたり、まずは区民が、自らの足元にある魅力に気づくことが重要です。まちなかの魅力を区民自ら発掘、保全できるよう様々な取り組みを推進していきます。

また、旧加賀屋敷御守殿門（赤門）や旧安田楠雄邸など一部の資源については、観光面での活用も進んでいることから、これらの先行事例を足がかりに、他の魅力要素についても観光活用を進めるための磨き上げを行っていきます。

● 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり

文京区が有する多彩な地域資源を観光の魅力としてアピールするためには、それらを来訪者に対して分かりやすい形で示すことが大切です。本区では、まちあるきのリーフレットとして、地域別にコースを設定した観光ガイド「おさんぽくん」の発行に取り組んできました。今後は、豊富な区の地域資源に周辺地域の資源も併せ、特定のテーマ別に魅力を選び出し、つなぎあわせるなどして、本区らしいストーリー性のある様々なコースづくりを行い、文の京の魅力を来訪者に伝えていきます。

● 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり

本区は、15の大学を始めとする数多くの教育機関が存在し、「教育のまち」としても知られています。また、印刷やスポーツ、歴史、文化など様々な分野の美術館や博物館等が32か所あり、文京ミュージアム・ネットワーク（通称：文京ミューズネット）が形成されるなど「知的好奇心」を満たす資源に溢れています。

教育機関・施設等が独自に開催する講座のほか、区主催の「文京区生涯学習司（※1）」や「地域文化インタープリター（※2）」を養成する講座等様々な生涯学習の取り組みも盛んです。今後は、これらの「学び」の要素と観光の連携をさらに強化し、文の京らしい新たな魅力づくりを推進していきます。

● まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築

まちあるきを楽しむ上では「食べる」「買う」「体験する」といった魅力が欠かせません。地域の商店街や地場産業、文京区伝統工芸会等と連携して、「文京区でしか味わえない食」「文京区でしか手に入れることができないもの」「文京区でしかできない体験」を「文京ブランド」として打ち出し、本区のまちあるきの魅力を高めていきます。

※1 生涯学習に関する一定の知識とスキルを習得し、さらには生涯学習事業を企画・コーディネートできる地域のリーダーとして文京区が認定した人。

※2 地域文化の価値を理解するために必要な知識や技術を習得した文京区の文化資源の案内役として文京区が認定した人。

取り組みの柱
2

まちあるきのための
環境整備

基本施策

- 文の京らしい景観づくりの推進
- 区内の回遊性を向上させる誘導システムの整備
- 安全・安心でやさしいまちを実現する環境整備の推進
- 区民の生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり

● 文の京らしい景観づくりの推進

本区は、文京シビックセンター周辺の都会的な景観、根津・千駄木の情緒あるまちなみ、小石川後樂園や六義園など庭園の緑、歩きたくなる坂道等の多様な景観を持っています。

本区では、地域のまち並みにふさわしい景観を創造しているものや、区民に身近なものとして親しまれ、心のふるさととして景観形成に寄与しているものを顕彰する取り組みとして「文の京都市景観賞」を設けています。

今後は、来訪者の視点も意識し、文の京らしい優れた景観の維持・保全に努めるとともに、まちあるきの魅力を高め、国内外に誇れる景観づくりを進めていきます。

● 区内の回遊性を向上させる誘導システムの整備

本区は、複数の地下鉄が走るとともに、JRの駅も近く、区外からのアクセスに恵まれており、利便性の高さも魅力の一つです。しかし、区内を横断的に移動できる交通機関が少ないという一面もあります。

区内の移動を快適なものとするのが、回遊性を高めるための大切な取り組みとなります。

本区で既に取り組んでいる文京区コミュニティバス「Bーぐる」や、電動自転車のレンタサイクルの活用を促進するなど、区内の移動の利便性向上に努めていきます。

また、わかりやすい案内標識やわくわく感のあるデザインにより、来訪者が安心して区内を巡ることができるように、案内方法の改善に取り組んでいきます。

● 安全・安心でやさしいまちを実現する環境整備の推進

来訪者を迎え入れるにあたっては、安全・安心であることが重要です。高齢者、障害者、外国人を含むすべての人に配慮したやさしいまちであることが地域の魅力にもなります。

誰にでもわかりやすいサインの充実やユニバーサルデザインを生かした施設の整備を目指すとともに、災害などの緊急事態に来訪者が巻き込まれた際、適切な情報提供や対応ができるような仕組みの検討を進めていきます。

また、本区は緑が多く、都心においても身近に自然を感じることができるまちです。人だけでなく、身近な自然や地球環境に配慮することも重要です。区では、街路灯を省エネルギー対応のものに交換するなど、環境を意識した施設の整備を進めています。今後は、ゴミの持ち帰り運動など、環境を意識した取り組みを進めることで、地球にやさしいまちを目指していきます。

● 区民の生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり

本区は、公園ガーデナーによるまちなかの植栽、文の京ロードサポートによる清掃活動など、よりよい住環境の整備を区民と協働で進めています。区民の協力を得ながら住環境を整えることは、区民の生活を豊かにするとともに、来訪者をひきつける魅力の1つにもなります。

本区の観光資源は、まちなかにあることから、来訪者の受け入れにあたっては、区民が築いた住環境や区民の生活への配慮が必要です。まちなかを訪れる来訪者に対して、マナー向上を促す取り組みを推進していきます。

取り組みの柱
3

まちあるきを通じた
交流の場・機会の創出

基本施策

- 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり
- まちあるきイベントの推進
- MICE の誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）

● 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり

伝統的技術、技法を保有する「文京区技能名匠者」やまちづくりに取り組む区民など、文京区を舞台として活躍する区民と来訪者との交流及び区民相互の交流活性化の環境づくりを進めていきます。

区民と来訪者の交流、長年住み続けてきた区民と新たに転入してきた区民の交流を活性化する仕組みづくりを通じて、本区の魅力に触れ、文の京での暮らしを感じられるような場や機会を増やしていきます。

● まちあるきイベントの推進

文京ふるさと歴史館主催の「史跡めぐり」など、まちあるきのイベントを現在も開催していますが、まちあるきへの注目が高まっていること、まちあるきが地域を知るための優れた手段となることから、区民や来訪者を対象とした新たなまちあるきイベントを推進していきます。例えば、年間を通じたイベントのシリーズ化など、厚みを持たせたイベントを企画・実施し、まちあるきの定着を目指していきます。その際には、対象となる観光施設・観光関連事業者だけでなく、商店街や区民等の多様な担い手が、各々の立場・役割を踏まえて、自立し、主体となり、また相互に連携できるような仕組みづくりに取り組んでいきます。

● MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）

本区には、東京大学をはじめ15の大学があるなど、会議開催が可能な施設が多く立地しています。こうした大学や各種会議施設と連携し、学会等 MICE（※3）の誘致を促進するとともに、会議後の区内まちあるきなどアフターコンベンション（※4）の充実を目指していきます。さらに、近隣区で開催される会議等のアフターコンベンションの誘致を推進していきます。

※3 会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、イベント、展示会・見本市（Event/Exhibition）のこと。会議等の開催により、来訪者の増大や各種分野への経済効果などが期待されます。

※4 会議終了後に、参加者や主催者、同伴者が開催地周辺で視察や観光、飲食等を行うこと。

取り組みの柱
4

観光まちづくりのための
情報発信

基本施策

- 文の京に関する情報収集・発信機能の強化
- ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進
- メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR
- 情報通信技術を活用した情報発信の推進

● 文の京に関する情報収集・発信機能の強化

本区が有する多様な魅力要素について、「情報」という形できちんと来訪者に伝えていくことが必要です。まずは、まちづくりや生涯学習、商店街、地場産業など、観光に関連する幅広い情報を集約します。これを客観的な情報として提供するだけでなく、区民や来訪者が選ぶ「おすすめの場所・祭り・人」など、多様な意味づけを行って発信していきます。

また、観光案内拠点「文京区観光インフォメーション」を活用し、来訪者に対して旬の情報を迅速・適切に提供していきます。

今後は、本区の地域資源などを後世に伝えていくため、写真や映像等の保存・管理も推進していきます。

● ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進

本区への来訪者は、まちあるきを目的とした人、所用による立ち寄り客、外国人観光客、宿泊者、あるいは通勤・通学者など多岐にわたります。それぞれの特性に応じた情報の切り口・発信方法で効果的な情報発信に努めます。特に「旬な情報の提供」「わかりやすさ」「多言語化」を意識した取り組みを推進します。

また、来訪者だけでなく区民に向けた情報発信も強化します。区民交流の活性化が図られるような、「区民の目線」を意識した地域情報・観光情報を提供し、地域の関心と観光に対する意識の向上を目指していきます。

● メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR

新聞社、TV、雑誌等で、本区が取り上げられる機会が増えるようにPRを進め、来訪のきっかけづくりを強化します。本区の魅力が、より多くの人目に触れるように、メディアとの協力体制を築き、積極的に「旬」な情報を発信していきます。

● 情報通信技術を活用した情報発信の推進

日々進歩の著しい情報通信技術を積極的に活用し、本区の観光に関する情報を積極的に受信・発信するとともに、来訪者の多様なニーズに応じた情報を効率的・効果的に提供していきます。また、携帯端末等を活用し、高齢者や障害者、外国人などの円滑な移動支援に取り組んでいきます。

取り組みの柱
5

観光まちづくりのための
人材育成

基本施策

- 文の京の魅力を伝える人材等の育成
- 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用
- 文の京全体としてのホスピタリティの醸成

● 文の京の魅力を伝える人材等の育成

本区は、区内大学と連携して「文京区生涯学習司」「地域文化インタープリター」の養成講座を実施し、地域で活躍する人材として独自の資格取得者を育成してきました。

さらに、英語による観光案内の充実を図るため、英語観光ボランティアの育成に取り組んできました。

ガイド育成に当たっては区内の教育機関等と連携を図り、本区の魅力を来訪者に分かりやすく伝えられる人材育成を進めていきます。

● 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用

本区には、すでに観光まちづくりに関連する取り組みを行っている組織・団体があります。文京ふるさと歴史館友の会では、「文京まち案内」の活動を通じて来訪者に本区の魅力を伝えていきます。

大学などの教育機関、商店街、区民など観光に興味のある団体・人と連携を図り、これらの組織・人材が観光まちづくりの様々な場面で活躍できる仕組みを整えていきます。

● 文の京全体としてのホスピタリティの醸成

来訪者の受け入れにあたっては、観光関連業者や商店街等の事業者と一般区民の双方が、それぞれの立場であたたかく迎え入れることが大切です。

来訪者と直に接する機会が多い商店街等の事業者に対し、講演会や事例紹介など様々な手法を用いながら、観光まちづくりの実践者としての意識の向上を図っていきます。区民に対しては、本区が観光振興に取り組む意義や本区が有する資源に関する理解促進を図り、来訪者との価値観の共有を通じて観光の担い手となるよう促していくとともに、次世代を担う人材の育成にも取り組んでいきます。

取り組みの柱
6

観光推進体制の構築

基本施策

- 各主体の役割の明確化と連携による観光振興の実現
- 観光協会の体制強化
- 行政内の観光推進体制の強化
- 広域連携体制の確立

● 各主体の役割の明確化と連携による観光振興の実現

観光まちづくりの担い手は、観光関連業者だけでなく他の事業者や、大学をはじめとする教育機関、まちづくりなどの地域活動団体、区民等、多岐にわたっており、それぞれの役割は今後一層重要になります。宿泊事業者、商店街、地場産業、美術館・博物館、教育機関、区民、地域活動団体、行政等の個々の役割を明確にし、多様な担い手を連携させることで、本区の観光振興を推進していきます。

● 観光協会の体制強化

地域の様々な観光の担い手が、それぞれの役割を果たしつつ、一体となって取り組みを進めていくためには、その中核となる組織体制の充実は欠かせません。文京区の観光の中核として、観光関連事業者だけでなく他の事業者や、区民、行政などの担い手をつなぐとともに、広域的な視点から旅行者誘致を推進するため、観光協会の体制強化に取り組んでいきます。

● 行政内の観光推進体制の強化

観光まちづくりは幅広い取り組みからなり、関係する行政分野は都市計画・経済・福祉等多岐にわたります。関係各課が連携して、ビジョンに基づく観光関連施策の進捗とその効果を定期的にチェックし、見直しながら目標を実現していきます。

● 広域連携体制の確立

本区は、区外からのアクセスに恵まれており、利便性の高い地域です。また、来訪者は区境を意識せずに魅力ある地を観光するため、本区と隣接する地域をあわせて訪れるケースが大半です。このような来訪者の行動の実態に即して、より効果的な観光振興の取り組みを実施するため、東京都や近隣区と連携を図り、より広く本区の観光資源をアピールしていきます。



おわりに

文京区には歴史・文化の香りと四季が感じられる観光資源が点在しています。こうした素材を磨き上げ、それにふれてみたいと思う人々を増やしていくことが必要です。そのためには、何よりも区民が「文京区」の魅力再認識し、誇りと愛着を持って楽しく暮らせることが大切です。

本観光ビジョンでは、文京区が抱えている様々な課題、可能性について整理し、今後10年間の目標と取り組みを明らかにしました。文京区は、本観光ビジョンに基づき施策の展開を目指します。実施にあたっては、今後策定されるアカデミー推進計画の中で具体的な取り組みについて検討していきます。また、社会情勢の変化等に対応し、柔軟に見直しを図りながら一歩一歩着実に前進させます。

観光ビジョンの施策を進めるための原動力は、文京区を舞台として活躍する一人ひとりの力の集積といっても過言ではありません。行政、観光協会、観光関連事業者だけでなく区民、事業者（商店街、地場産業、美術館・博物館など）、教育機関等全ての人々が観光の担い手であるという意識をもち、自ら取り組んでいくことが重要です。

施策を推進する様々な主体が役割を認識し、文京区全体として取り組むことで「行ってみたい、来てほしい、文の京」の実現を目指します。

